

芳賀赤十字病院だより **10** Number

発行責任者／岡田 真樹 編集／芳賀赤十字病院 広報編集事務局 社会課 栃木県真岡市台町2461

病院の役割と機能理解を 第1回 芳賀日赤ふれあいデー

日赤を身近に — 地域と一体、初のイベント —

H21年11月21日(土)「芳賀日赤ふれあいデー」を院内の駐車場周辺で開催した。当日は天候にも恵まれ、多くの家族連れなどでにぎわった。赤十字思想150周年に当たる今年、地域住民に日赤の使命や組織を身近に感じてもらうと、院長、看護部長が市民と意見交換会を実施した。



安全で安心な透析医療をめざして

透析センターは血液透析を担当している部署です。20床のベッドがあり、医師2人、看護師9人、臨床工学技士5人、看護助手1名が勤務しています。透析患者様にとって透析はずっと続けていかななくてはならない治療であり、患者様やご家族には心身の様々なお悩みがあります。私たちは患者様の病状に応じた安全な透析を実施するとともに、患者様一人ひとりが充実した生活を送れるような支援を心掛けています。また、病気と向き合いながらも明るい患者様たちとのふれあいは、私たちにとって元気の源となっています。今年6月、当院に透析看護認定看護師が誕生しました。透析看護認定看護師の活動によって、透析患者様やご家族への支援をさらに充実させていきたいと思っております。



透析センタースタッフ



臨床工学士



透析センター全景



看護師

PTAの治療場面

当院では透析だけでなく、透析に使用する血管（シャント）の治療も行っています。PTAとはシャントが細くなってしまった場合の治療です。シャントにカテーテル（管）を入れ、風船をふくらませて血管を広げます。他施設から多くのご紹介をいただいております。



シャントの治療はおまかせください!

透析認定看護師 長谷部 明子



私の役割は大きく二つあり、一つ目は外来通院の末期腎不全患者様に対して体の状態に合わせた生活調整の相談や指導による支援をすることです。二つ目は透析を受けている患者様に対して心身の負担が少ない透析治療の管理を提供することです。

外来では、腎臓病保存期看護外来として、透析治療に入る前の患者様の苦勞などお話を聞かせていただいております。一つでも二つでも患者様のお役に立てるように情報をお伝えして、生活しやすいようお手伝いをしています。透析センターでは患者様一人ひとりの個性を尊重し、透析合併症予防を目指しスタッフと共に取り組んでいます。人生まだまだ勉強中ですが、肝腎かなめの「腎臓」担当ですので、家族の方でも不安やご心配なことがありましたらお気軽にご相談にいらしてください。

安全で質の高い 医療・看護をめざして

中央館4階病棟では、ベッド数54床で、脳外科・泌尿器科・耳鼻科・口腔外科・整形外科・内科の患者様が入院している混合病棟です。スタッフは看護師32名、クラーク1名、看護補助者4名が勤務しています。さらに10月から新任の脳外科・河村先生をお迎えし、活気あふれる病棟となりました。スタッフはそれぞれ病棟の目標である安全で質の高い医療・看護、個々の患者に応じたQOLの向上を目指し日々の看護に取り組んでいます。



病棟のスタッフ



デイルームでの食事風景

脳神経外科



河村先生 部長の山口先生

口腔外科



部長の岡田先生 細川先生

泌尿器科



部長の近藤先生

耳鼻咽喉科



副部長の藤澤先生

就任のごあいさつ

看護部長 久保 智子



今年4月付で看護部長を拝命してあっという間に半年が経ちました。

芳賀赤十字病院は、1市4町芳賀郡における中核病院として地域医療を担い今年で60年を迎えます。初代看護部長の故人である渡辺文子姉は、第21回フローレンスナイチンゲール記章を授与された凛とした人でした。2代目の鯉淵タツノ姉、3代目の谷田貝貞子姉と続き私は4代目となります。赤十字看護師として歩んできた先輩の功績に敬意を表する一方、この時代に沿った変革をしていきたいと、只今微力ながら取り組んでおります。

看護部職員は10月現在309人、病院職員の6割を占める大所帯です。看護師長12人が中間管理を担当、配置部署は、8病棟と手術室、透析室、外来、看護相談室、居宅支援事業所、訪問看護ステーションの他、医療社会事業課、社会課等幅広く活躍しています。

看護師配置では入院基本料7対1を取得していますが、実情では24時間365日交替制の看護業務は多忙で、患者さんのニーズに十分応えるには不足しています。しかしながら、人の命を預かる看護師には確かな知識と技術・感性の豊かさが必要なので、当院の看護師は認定看護師資格や大学院進学などキャリアアップにチャレンジして活躍しています。

今日の医療問題には、医療者側と患者の間にある 情報の非対称性 があります。多忙な医師に換わり病院の中をよく知っている看護師が、患者さんの不安や質問に答える看護相談や看護外来を始めました。今後さらに進むであろう情報公開、個人情報保護など相反する価値観や多様性に地域の皆様の医療の支えになりたいと願い、今後も一生懸命取り組んでまいりたいと思います。どうぞよろしくお願い致します。

地域医療連携課だより

こんにちは、地域医療連携課です。今回は「登録医」のご紹介をいたします。

病院の正面入口を入ってすぐに、『芳賀赤十字病院登録医』の一覧パネルがあるのをご存知ですか？「登録医」とは、当院と連携している医療機関(医師・歯科医師)です。近年は、身近に「かかりつけ医」を持つことが奨励されています。当院でも、地域の先生に診て頂くことが好ましい患者さんには、登録医の先生をご紹介します。登録医の先生の所に通院されながら、病気の症状や検査の必要性に応じて当院を受診いただき、地域の先生と、当院のような中核病院での役割分担をしております。ご来院の際には、是非、登録医のパネルで地元の先生方を確認してみてください。今後は、更にわかりやすい案内や表示ができるように、改善していきたいと思っております。



これからも、団員と共に
より良い活動が
できま
すよう日々努力していき
たいと思います。

(平成21年11月寄稿)

またその他、健康生活支援講習会の開催や、年二回の研修を行い団員の親睦を図っています。今年には太子食品工業(株)日光工場を見学し、豆腐や納豆を試食させていただきました。その後、城の湯温泉で団員と楽しい一日を過ごしました。

市貝町は、緑豊かな山野と全国的に関心の高い里山の自然が各地に残っています。私たち日赤奉仕団は、昭和五十六年に発足し、現在三十名で活動を行っております。

主な活動の内容は、毎月一回AグループとBグループに分かれ真岡線を利用して芳賀日赤へ訪問し、医療衛生材料の準備作業を実施しております。その他の活動としては、本州最大級を誇る芝ざくら公園での芝ざくら祭りに、市貝町ボランティア連絡協議会が出店する際の一員として、赤飯・山菜おこわ・あんころもち・みそおでん等の販売に参加し、その益金を市貝町地域福祉振興ボランティア協力基金に寄付しています。また、老人クラブが主催するシルバースポーツフェスティバルにボランティアとして協力しております。



市貝町赤十字奉仕団
委員長 伊傳 ハツエ

私たちは、赤十字の
サポーターです。

内視鏡室からのお知らせ!!

「経鼻内視鏡を導入しました」

みなさん、内視鏡検査（胃カメラ）をどう思いますか？多くの方が苦しい、辛いと感じていてできればやりたくない検査の1つだと思います。この度当院ではその苦痛を軽減できるよう7月から経鼻内視鏡を導入いたしました。

経鼻内視鏡の特徴は

1 苦痛が少ない

口からの内視鏡は約10mmですが鼻からの内視鏡は約5mmと細いため検査中の負担が少なくなります。

2 咽頭反射がほとんど起きない

舌根（舌の付け根）に触れると咽頭反射（オエッとなること）が起こりますが経鼻内視鏡は舌根に触れることなくファイバーが通過するため咽頭反射はほとんど起こりません。

3 検査中に会話できる

鼻からの挿入でありマウスピースをくわえません。そのため検査中モニター画面を見ながら話ができ、医師に質問などもできます。



ファイバースコープの太さの違い



鼻から挿入

4 検査終了後すぐ飲食ができる

鼻だけの麻酔であり喉には麻酔をしていないので喉の違和感がとれれば飲食ができます。

過去に口からの内視鏡検査で苦痛を感じたことのある方、また抵抗感、恐怖感をお持ちの方も経鼻内視鏡検査を1度受けてみてはいかがでしょうか。

スタッフ一同お待ちしております。



内視鏡スタッフ

芳賀日赤病院が総務大臣賞受賞

40年余の救急救命の実績が評価



芳賀赤十字病院は、9月9日に東京で行われた救急功労者表彰式で、40年有余の永きにわたって救急患者を積極的に受け入れ、さらに救急救命体制の構築に多大な貢献をしてきたことが評価され、総務大臣賞を受賞しました。

平成20年度の救急患者のうち、全搬送人数の63.74%にあたる3134人を受け入れて診療にあたり、さらに夜間は全体の約70%の傷病者を収容しています。過去5年間では、芳賀地区の全人口の約1割に相当する1万3840人の受け入れ実績があり、芳賀地区の中核病院として地域医療に貢献していることが認められました。

限りある医療資源を有効に活用しましょう!

救急車の搬送数の推移

平成21年	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
台	268台	277台	271台	328台	296台	281台	272台



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

芳賀赤十字病院